

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立浦和商业高等学校)

目指す学校像	グローバルに展開する経済社会において、多様な分野で幅広く活躍する商業人材の育成
--------	---

重点目標	1 資格取得などの段階的な目標設定を通じて高度な知識・技能の習得を図るとともに、応用力・創造力を育む探究活動を通じてたくましく生き抜く力を養う。 2 地域の中核を担う商業高校として、教育活動の充実を図り、魅力ある商業教育を推進する 3 キャリア教育を推進し、社会人として必要な知識・技能や教養とマナーを身に付け、規範意識を持ち、生涯にわたり主体的に行動できる人材を育成する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

グレー部分は、令和4年度シートの「次年度への課題と改善策」と「学校関係者評価」である。これらを踏まえて、左端にある令和5年度の「現状と課題」を設定する。

○「重点目標」と対応、●令和4年度「次年度への課題と改善策」「学校関係者評価」に記載されたキーワードを交えて記述

○今年度の達成目標のこと、●「～を向上させる」、「～の改善」、「～を達成する」と記述

○取組計画のこと、●「誰が」「いつまでに」「どうやって」「どの程度まで」について記述

○達成状況を測る”ものさし”や”目盛り”のこと、●年度途中でも、どの程度の達成状況かわかるように記述

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>○ 【たくましく生き抜く力の養成】 [現状] 授業互見とそのフィードバックが不足していること [課題] 学習評価の改善と授業改善が必要であること</p> <p>● (現状) 生徒のアウトプット活動(記述・議論・発表など)の活性化と、教科等横断的な外部連携授業の実施が一層必要であること (課題) 主体的・実践的な学びの充実に向け、生徒の相互通行のアウトプット活動の活性化と、外部連携の充実</p>	<p>○ 観点別学習状況の評価の着実・効果的な実施を図るとともに、授業互見の活性化により指導と評価の一体化を推進する。</p> <p>● 生徒のアウトプット活動の活性化による主体的学びの充実と、外部連携活動による実践的な学びを推進する。</p>	<p>○ 観点別学習状況の評価に関する評価・改善の実施(毎学期) ・授業互見とフィードバックによる授業改善の実施(毎学期)</p> <p>● 生徒のアウトプット活動の活性化(毎学期) ・アウトプット活動を効果的にする、相互通行のICT活用による活性化(毎学期) ・外部連携活動の実施(毎学期)</p>	<p>○ 学習評価の改善について、6割以上の達成度や経時的上昇が見られるか(毎学期)。 ・教職員一人当たり、平均年2回以上の授業見学とフィードバックが実施できたか。</p> <p>● アウトプット活動の充実について、6割以上の達成度や経時的上昇があるか(毎学期)。 ・相互通行のICT利用度が日常的になったか(毎学期)。 ・教職員一人当たり、平均年2回以上の外部連携活動が実施できたか。</p>	<p>○ 達成状況を測る”ものさし”や”目盛り”のこと、●年度途中でも、どの程度の達成状況かわかるように記述</p>	a	<p>指導と評価の一体化の推進のための授業公開は例年どおり実施できたが、参観後のフィードバックが例年より少なかった。授業互見による授業改善の意見の集約を進めたい。観点別学習状況の評価も、年間の振り返りを通じて信頼性や公平性、多様性を高めたい。</p> <p>アンケートからも本校の生徒は授業におけるアウトプット活動(記述・議論・発表など)の実施を望んでおり、そのような場面が少しずつ増えてきた。例えば、コロナキャッチフレーズの最優秀賞受賞や税に関する標語の受賞等である。今後も、外部資源と連携したアウトプット活動を推進したい。</p>	<p>○指導と評価の一体化への学校の努力が実を結びつつあるので、さらに推進されることを期待する。 ○保護者への授業公開も積極的にを行うために、保護者へのメール通知の仕組みを導入していただきたい。 □グループワークの授業が増えて、授業が楽しくなった。一方、一部では、先生の話を聴き板書をノートに写すだけの授業もある。もっと対話や発言などのある授業を望む。</p> <p>○Web上でもコミュニケーションをとれる人材づくりは、これからの社会で大いに役立つはずである。 ○生徒のアウトプット活動は必要であるし、生徒が希望しているということもあり、一層活性化していただきたい。 ○ICT活用については、相互通行の授業がこれからの課題であると思う。一斉授業と同じような授業ではなく、相互通行の授業が増えることを期待する。 □プレゼンアプリを用いた授業が多く、後日、そのデータがグループウェア上にアップされるので復習に役立っている。</p>
2	<p>○ 【魅力ある商業教育の推進】 [現状] 学校の魅力について、効果的情報発信や相互通行の情報共有が求められていること [課題] 出前授業・動画公開・生徒・保護者を前面に出す学校説明会等の実施による、説明会等参加者数と希望・志願倍率の増加</p> <p>● [現状] 目指す学校像などの学校が掲げる目標に準拠した、予算の執行と経費削減が求められていること [課題] 教育目標を実現する、県費・団体費予算の効果的・効率的な執行</p>	<p>○ 学校の魅力の発信や情報共有を推進するため、出前授業・動画公開・生徒や保護者を前面に出す学校説明会を実施する。</p> <p>● 教育目標を実現する、県費・団体費予算の効果的・効率的な執行を図る。</p>	<p>○ 生徒・保護者を前面に出す学校説明会の実施(実施毎) ・出前授業等や動画公開の複数回実施(実施毎) ・学校説明会等の参加組数増加 ・希望倍率・最終志願倍率の上昇</p> <p>● 目標の準拠した起案・決裁・執行(実施毎) ・経費の削減(毎学期)</p>	<p>○ 生徒や保護者を前面に出す学校説明会等が実施できたか(実施毎)。 ・出前授業等や動画公開を複数回効果的に実施できたか(実施毎)。 ・学校説明会等の純参加600組以上が達成できたか。 ・希望倍率(10・12月)と最終志願倍率が前年度比上昇しているか。</p> <p>● 目標に準拠した起案・決裁・執行が行われているか。(実施毎) ・経費削減について、6割以上の達成度や経時的上昇があるか(毎学期)。</p>	<p>○ 達成状況を測る”ものさし”や”目盛り”のこと、●年度途中でも、どの程度の達成状況かわかるように記述</p>	a	<p>生徒を前面に出す学校説明会等が実施できた。今後は、保護者にも関わってもらったり、中学校へ向き出張授業を行ったりするなどして、中学生やその保護者、中学校に対する、本校の教育活動の理解を進めていく。</p> <p>生徒会予算・学年会計等の適正な会計執行に取り組むことが出来た。また、経費の節約に関するアンケートにおいても、生徒の約6割、教職員の9割が良好と回答した。引き続き、学校が掲げる目標に準拠した、適切な予算の執行と経費削減に取り組む。</p>	<p>○HPの更新回数が大変多く、生徒の活動が魅力的に伝わっており、有効な情報発信ツールである。 ○HPの変更内容やアクセス数と、その成果の結びつきがわかると、効果的な発信の在り方が判明するのではないかと。 ○SNSによる発信や動画の有効活用を検討してはどうか。 ○HPの生徒制作動画を観たが、生徒の生き生きとした様子が表現されていて良かった。 ○全部活動の公開・体験を実施してはどうか、学校説明会で浦商の魅力をもっと伝えるために、PTAも協力したい。 □文化祭の公開と学校説明会で部活動の魅力を発信したい。</p>
3	<p>○ 【主体的に行動できる人材の育成】 [現状] 生徒のキャリア形成のため、キャリア・パスポートの一層の有効活用が求められていること [課題] キャリア・パスポートの一層の有効活用</p> <p>● [現状] 効果的なキャリア教育の推進のため、支援ツール(生徒手帳・学習の手引き・スタサポ等)の連携が求められていること [課題] キャリアパスを中心とした、支援ツールの効果的な連携</p>	<p>○ キャリアパスポート(キャリアパス)の一層の有効活用により、生徒のキャリア形成を図る。</p> <p>● キャリアパスを中心とした支援ツールの効果的な連携により、キャリア教育を効果的に推進する。</p>	<p>○ キャリアパスの有効活用(毎学期)</p> <p>● キャリアパスを中心とした支援ツールの効果的な連携(毎学期)</p>	<p>○ キャリアパスの有効活用について、6割以上の達成度や経時的上昇が見られるか(毎学期)。</p> <p>● キャリアパスを中心とした支援ツールの効果的な連携について、6割以上の達成度や経時的上昇が見られるか(毎学期)。</p>	<p>○ 達成状況を測る”ものさし”や”目盛り”のこと、●年度途中でも、どの程度の達成状況かわかるように記述</p>	b	<p>面談やキャリアパス等を活用したキャリア教育推進の成果として就職希望者は100%、進学希望者も97%の進路実現を達成した(評価時点)。キャリアパスについては有効に活用するための仕組みづくりができた。さらに進化させるための改善に取り組むことが求められる。</p> <p>関係部署・職員が生徒理解を共有しながら連携することで、いろいろな事実を教育相談に上手につなぐことができた。具体的には、SCやSSWと連携した生徒支援の体制が構築できた。今後も、学校が掲げる教育目標に連なる下位目標や下位計画が、つながりを持って相乗効果を上げる仕組みや体制を構築したい。</p>	<p>○非常に高い割合で目標進路を達成していることに、教育効果の高さを感じる。 ○キャリアパスの有効性についても、高校生ということを前提にすると、アンケート結果の数値は必ずしも低いわけではない。 ○キャリアパスを全く活用していない教職員が一定数存在する。進路の手引きについても、教職員の活用度がまだまだ低い。教職員の活用度を上げることが、生徒の利用度を上げて教育効果を高め、人材育成につながるはずである。 ○キャリアパスの仕組みができてはいることだが、今後それが機能し、教職員・生徒の活用時間が高まることを期待する。 ○SC等と連携した教育相談体制の構築は、生徒へのきめ細やかなケアが可能となるので教育効果が高い。 ○面談の高い実施率の維持に加え、生徒会設置の目安箱の有効活用について支援していただきたい。 □キャリアパスは進路行事の後に記入できるようになっているので利用率は高い。学習の手引きは、しっかり読み込んでいる生徒は少ないような気がする。学習の手引きは記載内容が豊富なため、保護者との会話の材料になっている。 □生徒会で設置した目安箱の有効活用を図りたい。</p>